２－３　安全でおいしい水の安定供給に向けた取組

（１）高度浄水処理導入の認知度

問　水道局では、通常の浄水処理に加えてオゾンや生物活性炭を使った処理を行う高度浄水処理を導入していますが、ご存知ですか。

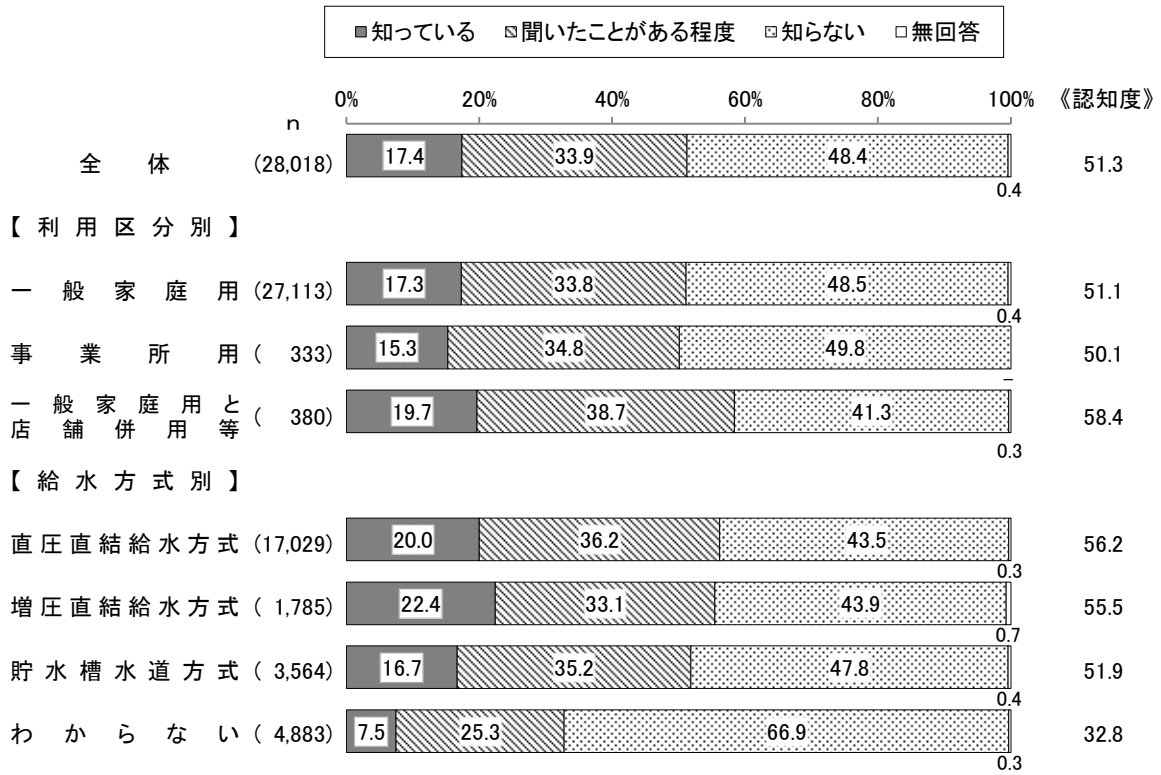
1）知っている　　2）聞いたことがある程度　　3）知らない

〔Ａ：問 11、Ｅ：問 11〕

［調査結果］

①　高度浄水処理導入の認知度（利用区分別、給水方式別）

〈図表２－３－１〉



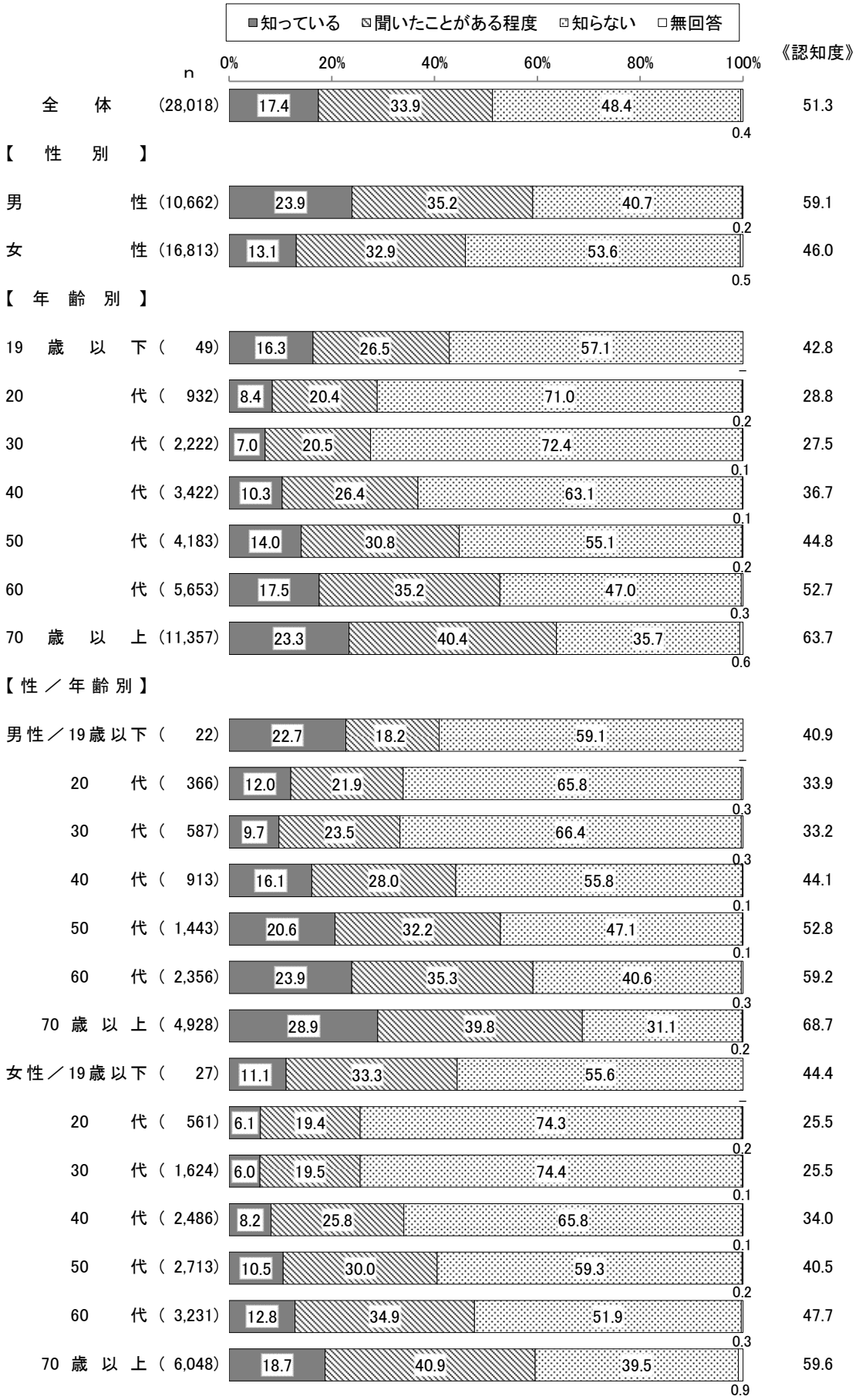
＜特徴＞

○全体でみると、「知らない」が48.4％で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が33.9％で、「聞いたことがある程度」と「知っている」（17.4％）を合わせた《認知度》は51.3％となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で58.4％と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、直圧直結給水方式で56.2％と最も高く、増圧直結給水方式で55.5％と続いている。

② 高度浄水処理導入の認知度（属性別）〈図表２－３－２〉



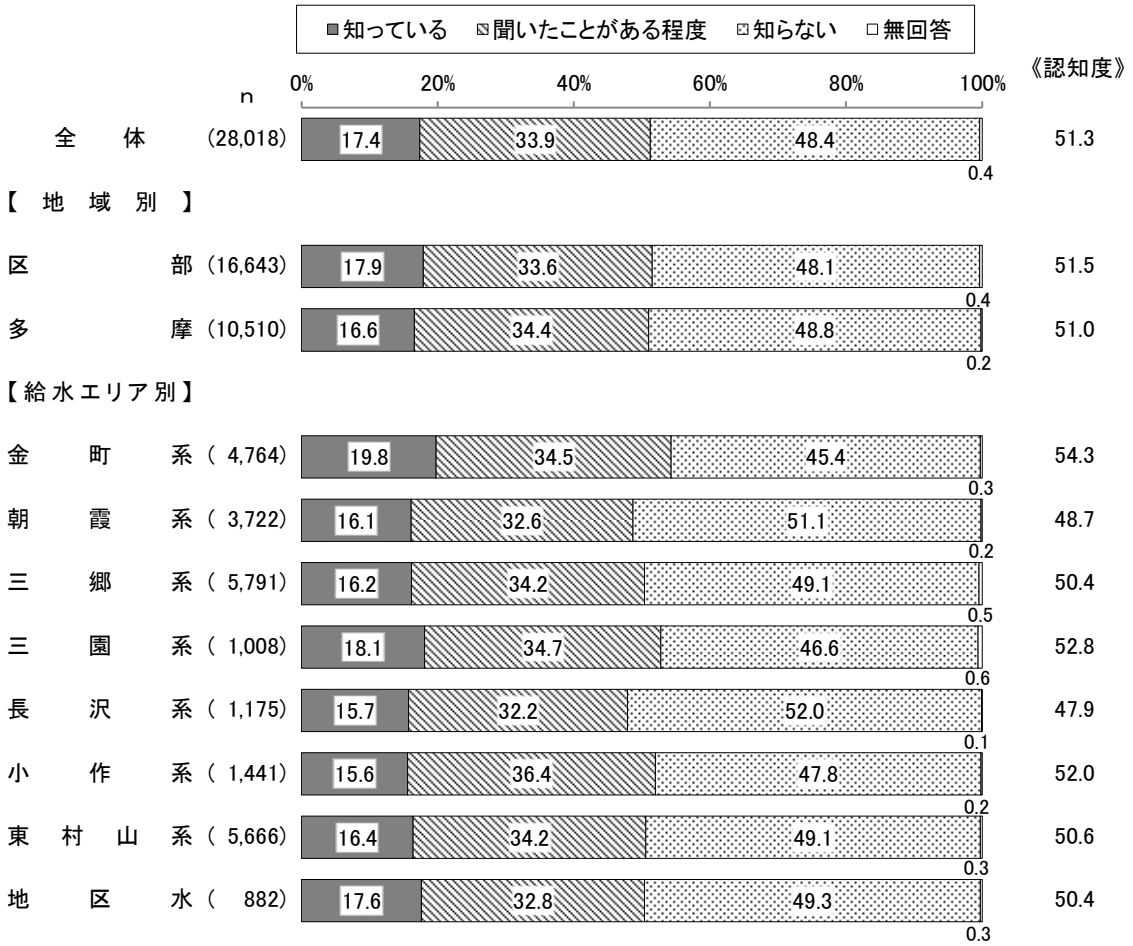
＜特徴＞

○性別では、《認知度》は、男性（59.1%）の方が女性（46.0%）より13.1ポイント高くなっている。

○年齢別では、《認知度》は、30代（27.5%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（63.7%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《認知度》は、男性は30代（33.2%）、女性は20代及び30代（25.5%）で最も低く、男女ともに、40代から年齢が上がるにつれ割合は高くなり、男性の70歳以上（68.7%）で最も高くなっている。

③　高度浄水処理導入の認知度（地域別、給水エリア別）〈図表２－３－３〉

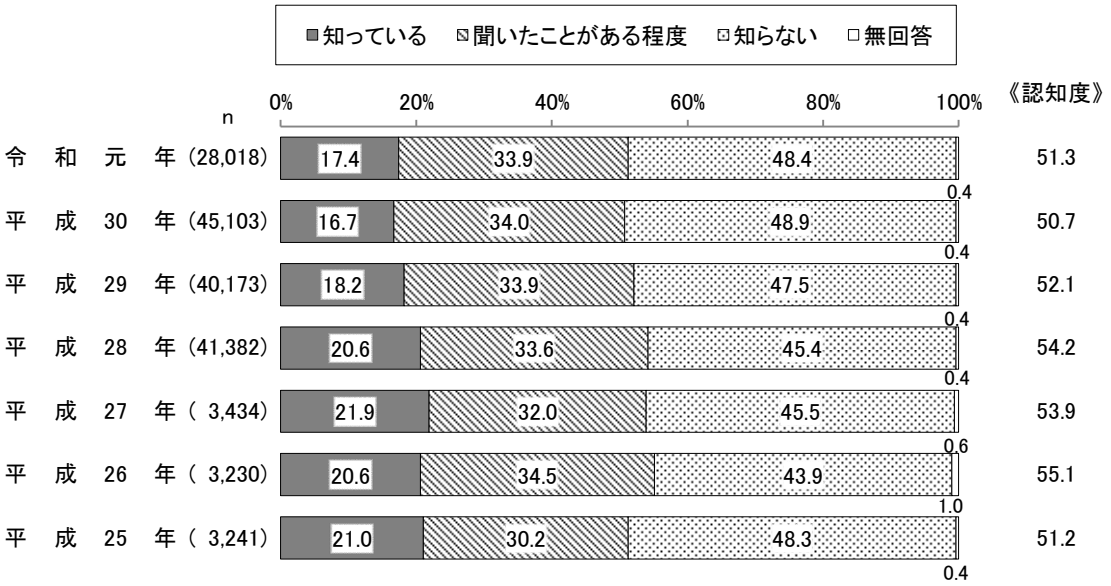


＜特徴＞

○地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。

○給水エリア別では、《認知度》は、金町系（54.3%）で最も高くなっている。

④　高度浄水処理導入の認知度（時系列：全体）〈図表２－３－４〉

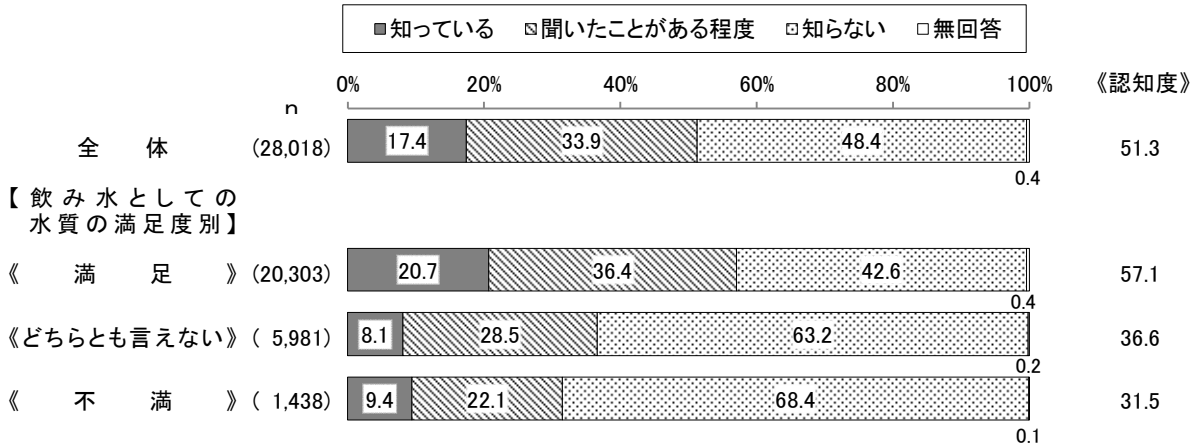


＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの５年間の傾向でも、特に大きな違いはみられない。

⑤　高度浄水処理導入の認知度（飲み水としての水質の満足度別）〈図表２－３－５〉



＜特徴＞

○飲み水としての水質の満足度別では、「知っている」は、飲み水としての水質に《満足》な人（20.7%）の方が、《不満》な人（9.4%）より11.3ポイント高くなっている。さらに「聞いたことがある程度」（36.4%）を合わせた『認知度』は、《満足》な人（57.1%）の方が、《不満》な人（31.5%）より25.6ポイント高くなっている。

（２）地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度

問　水道局では、地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源の確保に取り組んでいますが、ご存じですか。

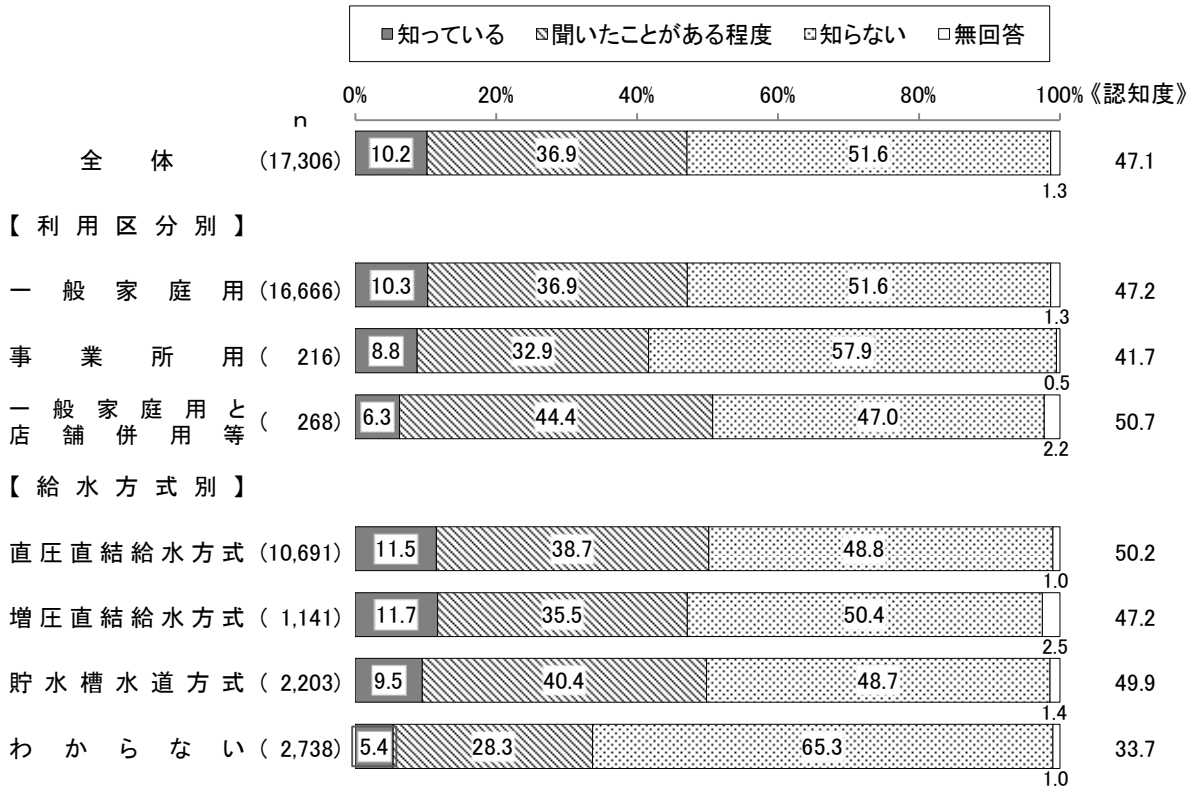
1）知っている　　2）聞いたことがある程度　　3）知らない

〔Ｂ：問 12〕

［調査結果］

①　地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度

（利用区分別、給水方式別）〈図表２－３－６〉



＜特徴＞

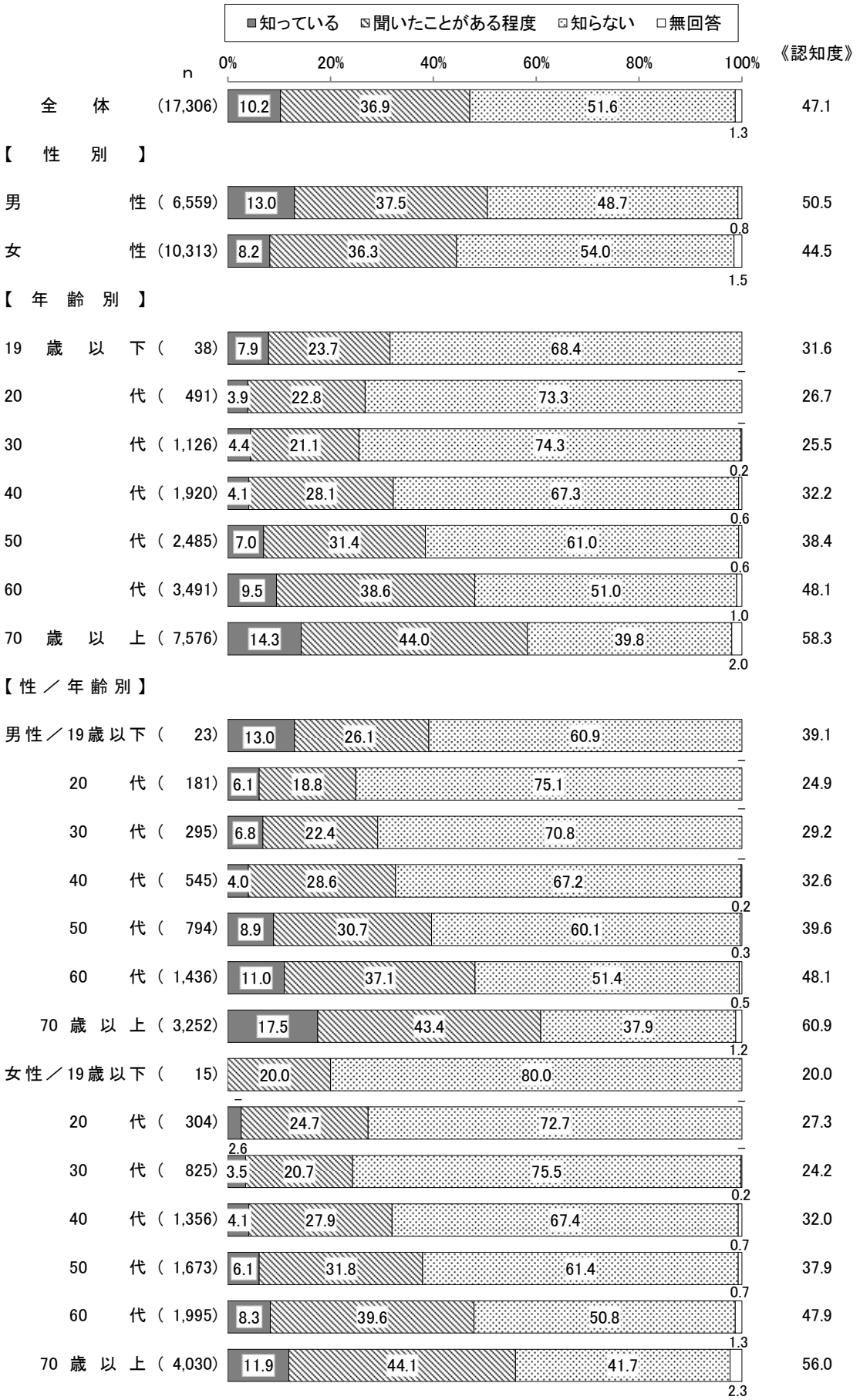
○全体でみると、「知らない」が51.6％で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が36.9％で、「聞いたことがある程度」と「知っている」（10.2％）を合わせた《認知度》は47.1％となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で50.7％と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、直圧直結給水方式で50.2％と最も高くなっている。

② 地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度（属性別）

〈図表２－３－７〉



＜特徴＞

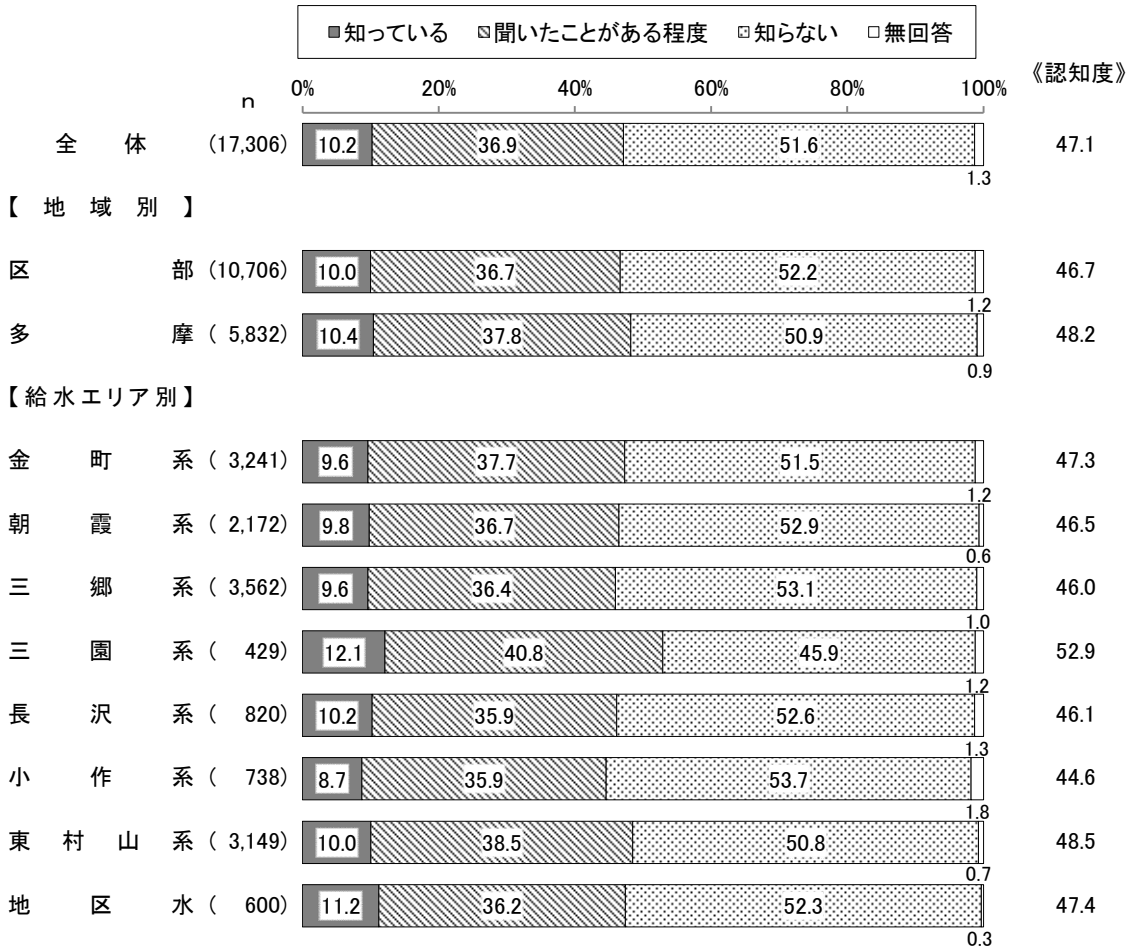
○性別では、《認知度》は、男性（50.5%）の方が女性（44.5%）より6.0ポイント高くなっている。

○年齢別では、《認知度》は、30代（25.5%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（58.3%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《認知度》は、男性は20代（24.9%）、女性は標本数が少ない19歳以下を除き、30代（24.2%）で最も低くなっており、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、男性の70歳以上（60.9%）で最も高くなっている。

③　地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度

（地域別、給水エリア別）〈図表２－３－８〉



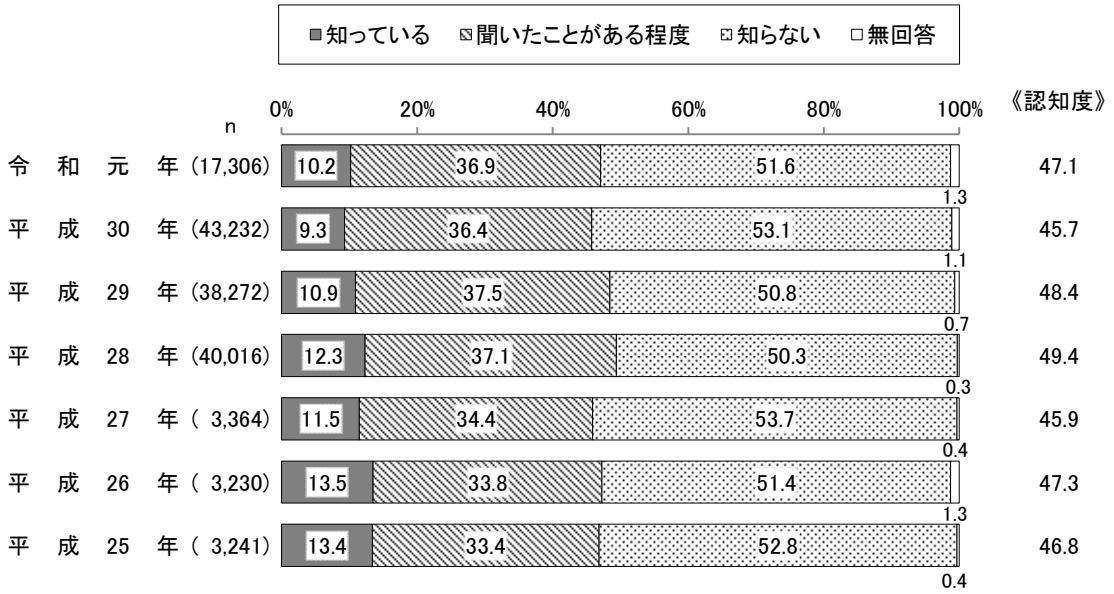
＜特徴＞

○地域別では、区部と多摩の割合に特に大きな違いはみられない。

○給水エリア別では、《認知度》は、三園系（52.9%）が最も高くなっている。

④　地球温暖化等の気候変動に伴う渇水にも対応できる水源確保の取組の認知度（時系列：全体）

〈図表２－３－９〉



＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

　平成27年度から令和元年度までの５年間の傾向でも、特に大きな違いはみられない。

（３）雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

問　水道局では、雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理に取り組んでいますが、ご存知ですか。

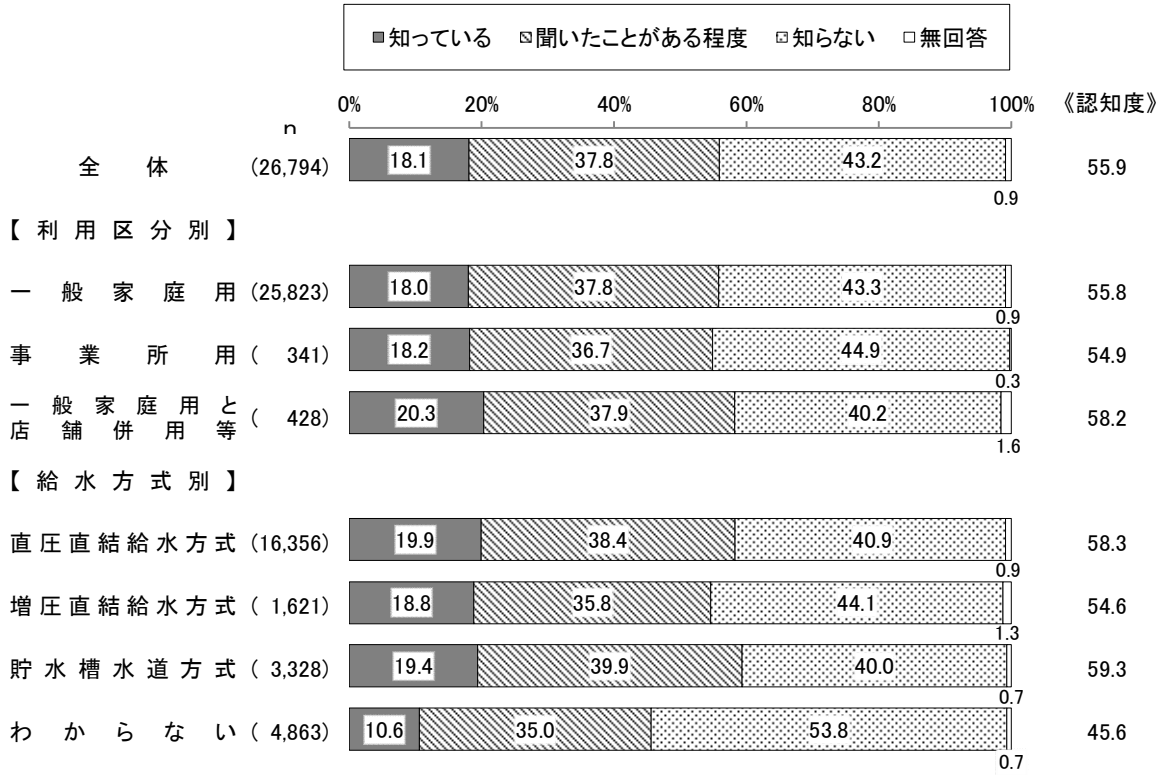
1）知っている　　2）聞いたことがある程度　　3）知らない

〔Ｃ：問 12、Ｆ：問 12〕

［調査結果］

①　雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

（利用区分別、給水方式別）〈図表２－３－１０〉



＜特徴＞

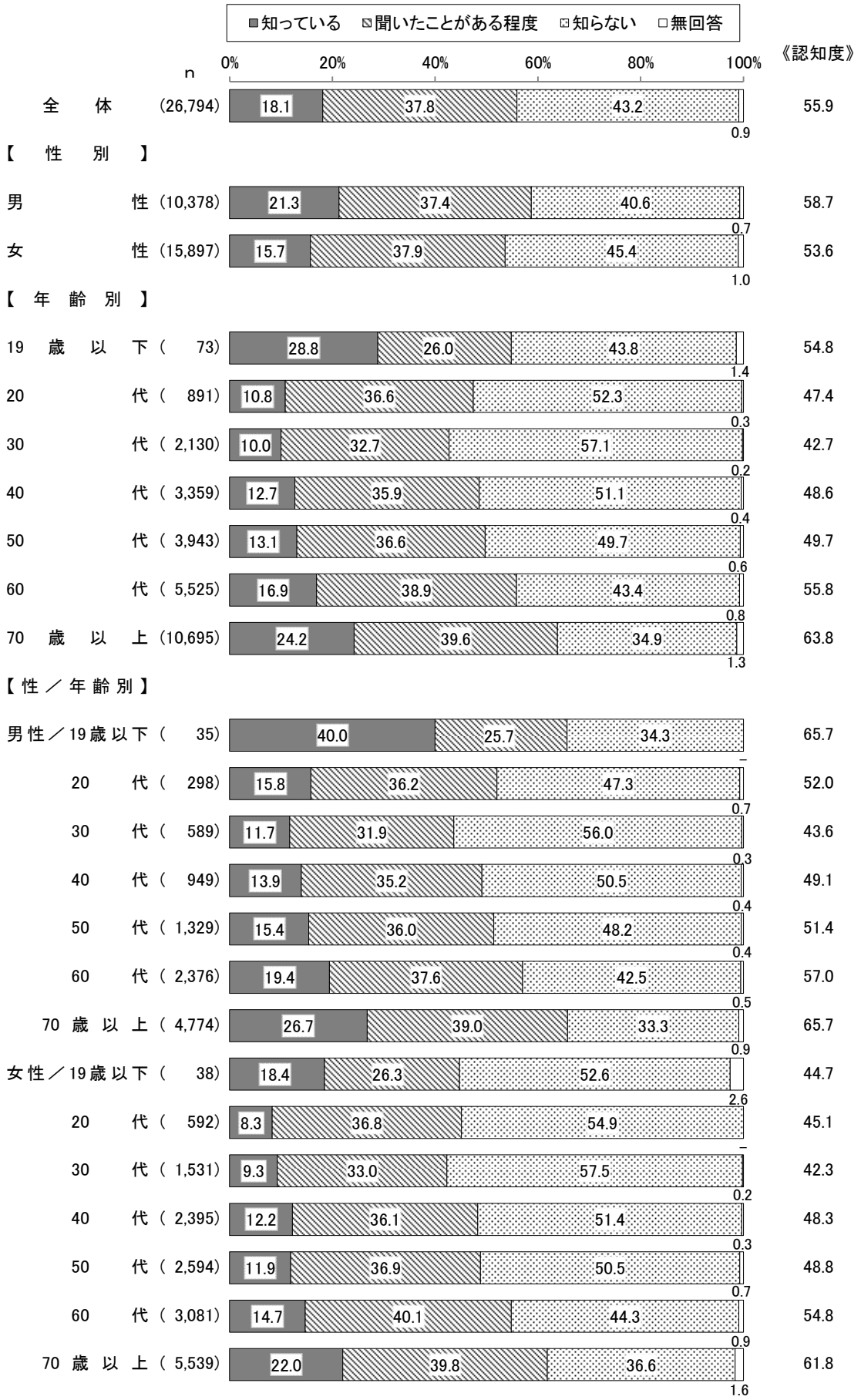
○全体でみると、「知らない」が43.2％で最も高くなっている。次いで「聞いたことがある程度」が37.8％で、「聞いたことがある程度」と「知っている」（18.1％）を合わせた《認知度》は55.9％となっている。

○利用区分別では、《認知度》は、一般家庭用と店舗併用等で58.2％と最も高くなっている。

○給水方式別では、《認知度》は、貯水槽水道方式で59.3％と最も高くなっている。

② 雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

（属性別）〈図表２－３－１１〉



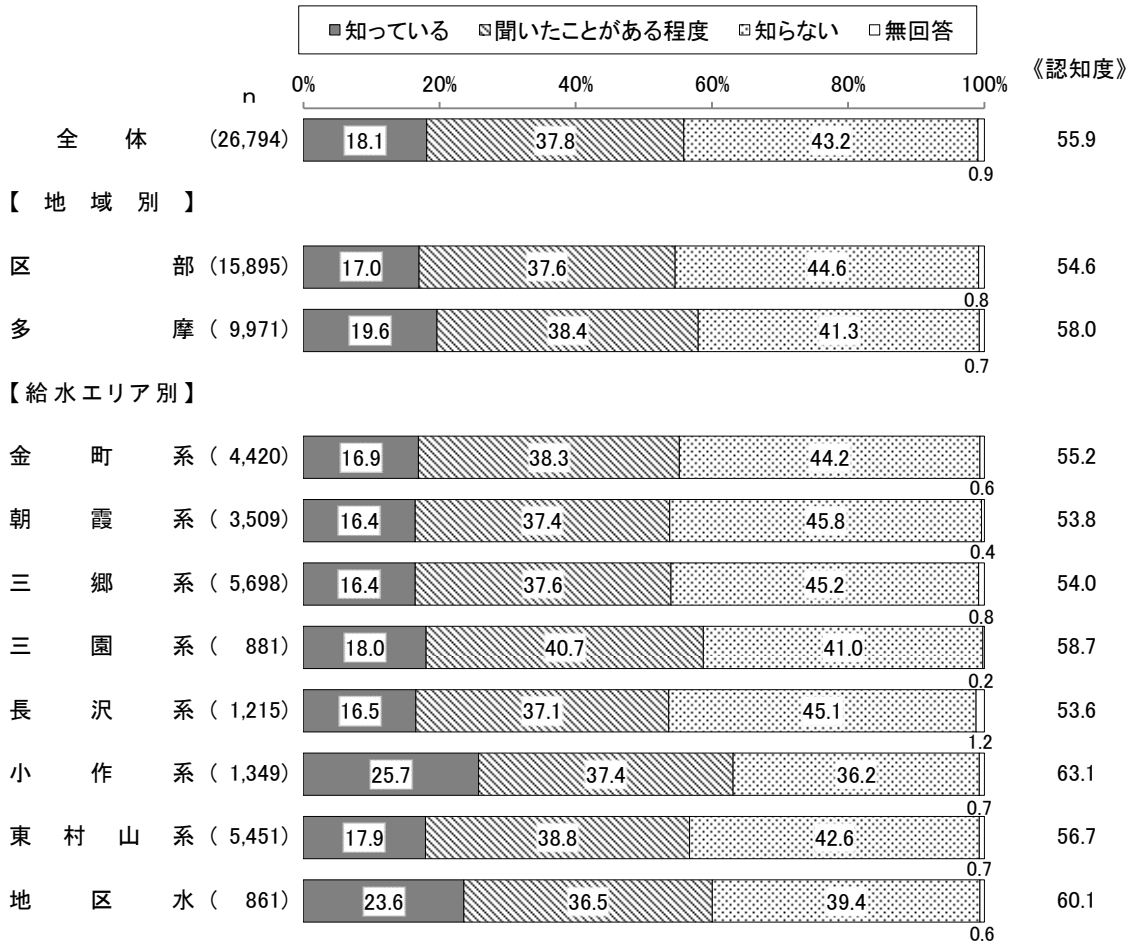
＜特徴＞

○性別では、《認知度》は、男性（58.7%）の方が女性（53.6%）より5.1ポイント高くなっている。

○年齢別では、《認知度》は、30代（42.7%）で最も低く、それ以降は年齢が上がるにつれ割合は高くなり、70歳以上（63.8%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、《認知度》は、男女ともに30代で最も低くなっており、それ以降は年齢が上がるほど高くなり、男性の70歳以上（65.7%）で最も高くなっている。

③　雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度（地域別、給水エリア別）〈図表２－３－１２〉



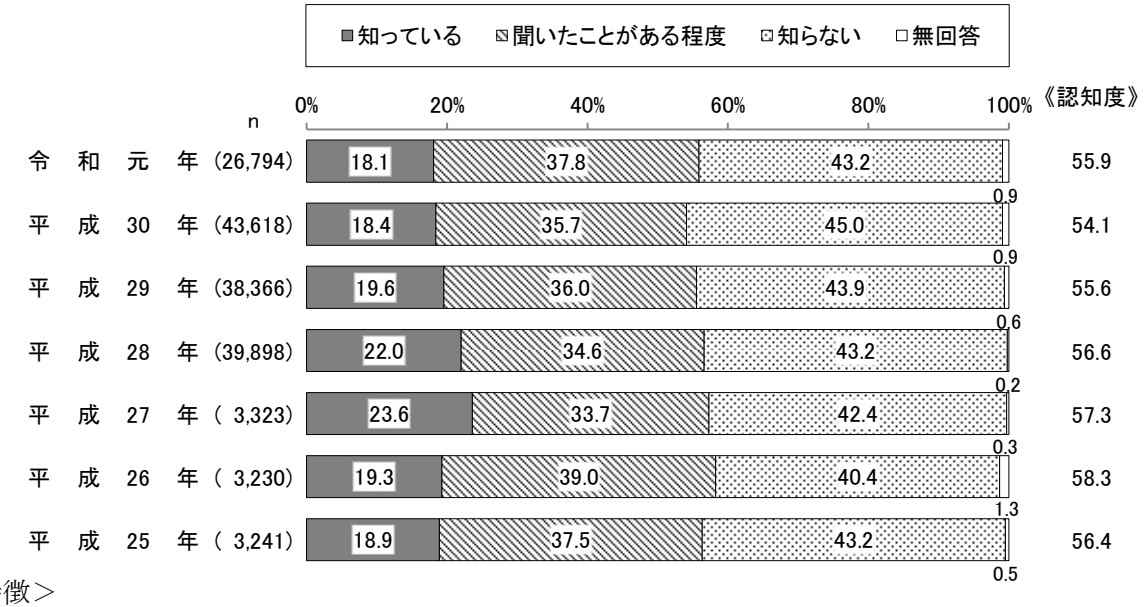
＜特徴＞

○地域別では、《認知度》は、多摩（58.0%）の方が区部（54.6%）より3.4ポイント高くなっている。

○給水エリア別では、《認知度》は、小作系（63.1%）で最も高く、次いで地区水（60.1%）となっている。

④　雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度

（時系列：全体）〈図表２－３－１３〉



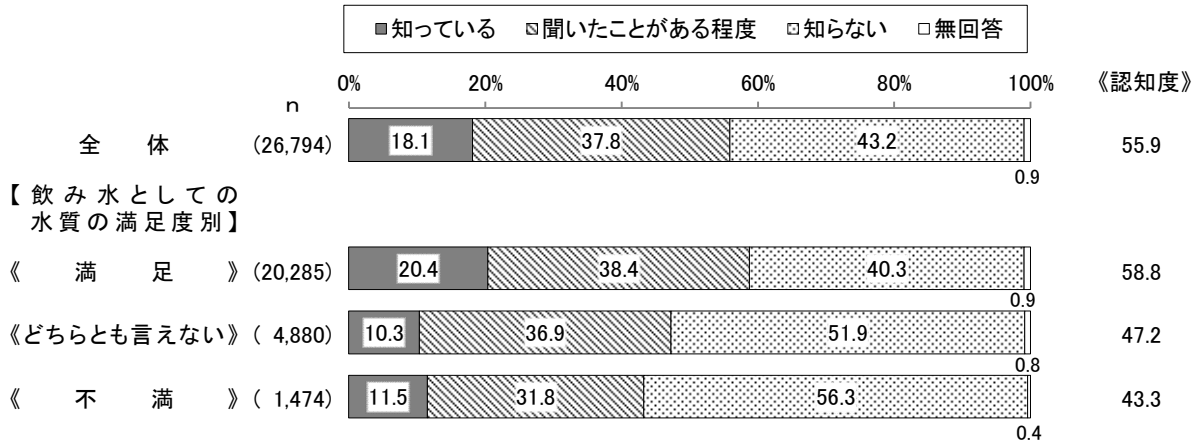
＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度と令和元年度の比較では、「知っている」が平成27年度（23.6%）から5.5ポイント減少しているが、《認知度》でみると特に大きな違いはみられない。

［詳細分析］（分析の軸はＣ票の設問）

⑤　雨水を蓄え、きれいな水に浄化する等の機能を持つ水道水源林の適正な管理の認知度（飲み水としての水質の満足度別）〈図表２－３－１４〉



＜特徴＞

○飲み水としての水質の満足度別では、「知っている」は、飲み水としての水質に《満足》な人（20.4%）の方が、《不満》な人（11.5%）より8.9ポイント高くなっている。さらに「聞いたことがある程度」を合わせた『認知度』は、《満足》な人（58.8%）の方が、《不満》な人（43.3%）より15.5ポイント高くなっている。

（４）「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無

問　最近「東京の水がおいしくなった」という声を耳にしたことがありますか。

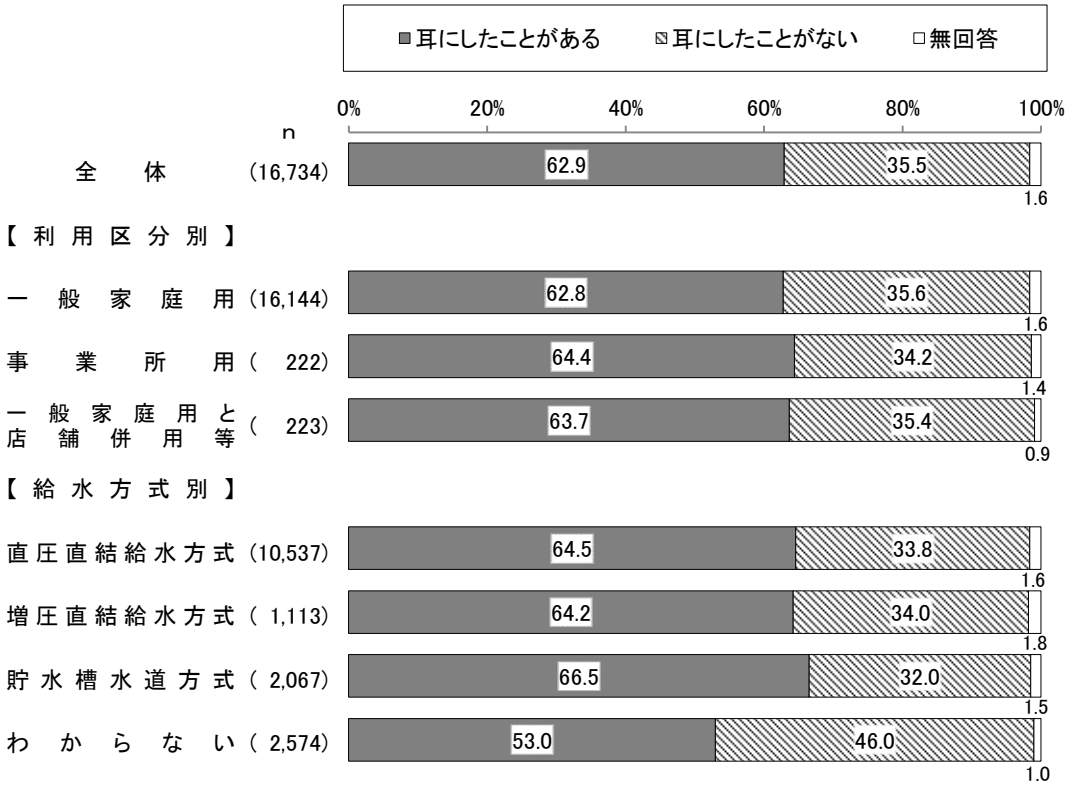
1）耳にしたことがある　　2）耳にしたことがない

〔Ｄ：問 11〕

［調査結果］

①　「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（利用区分別、給水方式別）

〈図表２－３－１５〉



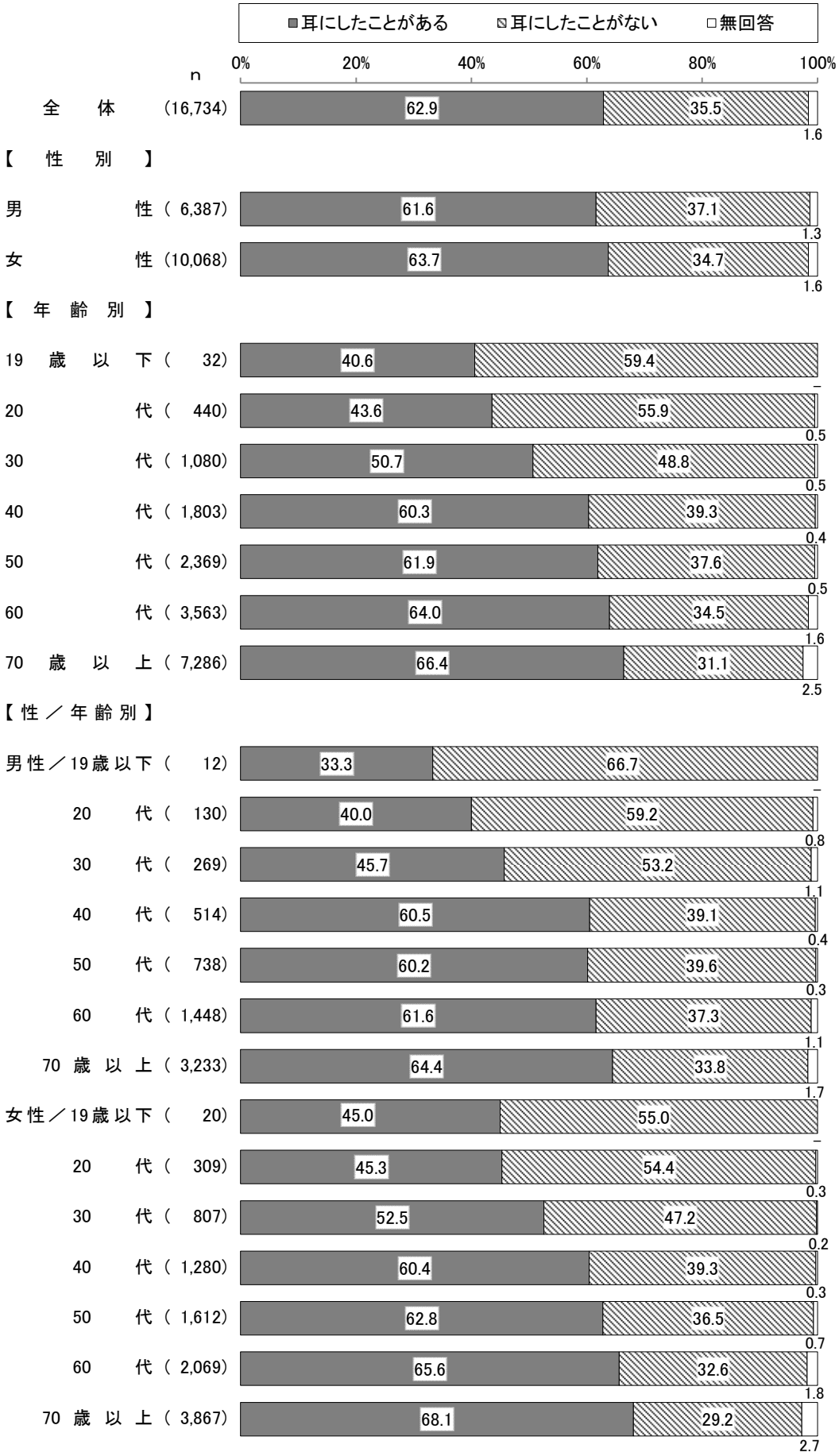
＜特徴＞

○全体では、「耳にしたことがある」が62.9％で、「耳にしたことがない」(35.5％) より高くなっている。

○利用区分別では、「耳にしたことがある」は、事業所用で64.4％と最も高くなっている。

○給水方式別では、「耳にしたことがある」は、貯水槽水道方式で66.5％と最も高くなっている。

② 「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（属性別）〈図表２－３－１６〉



＜特徴＞

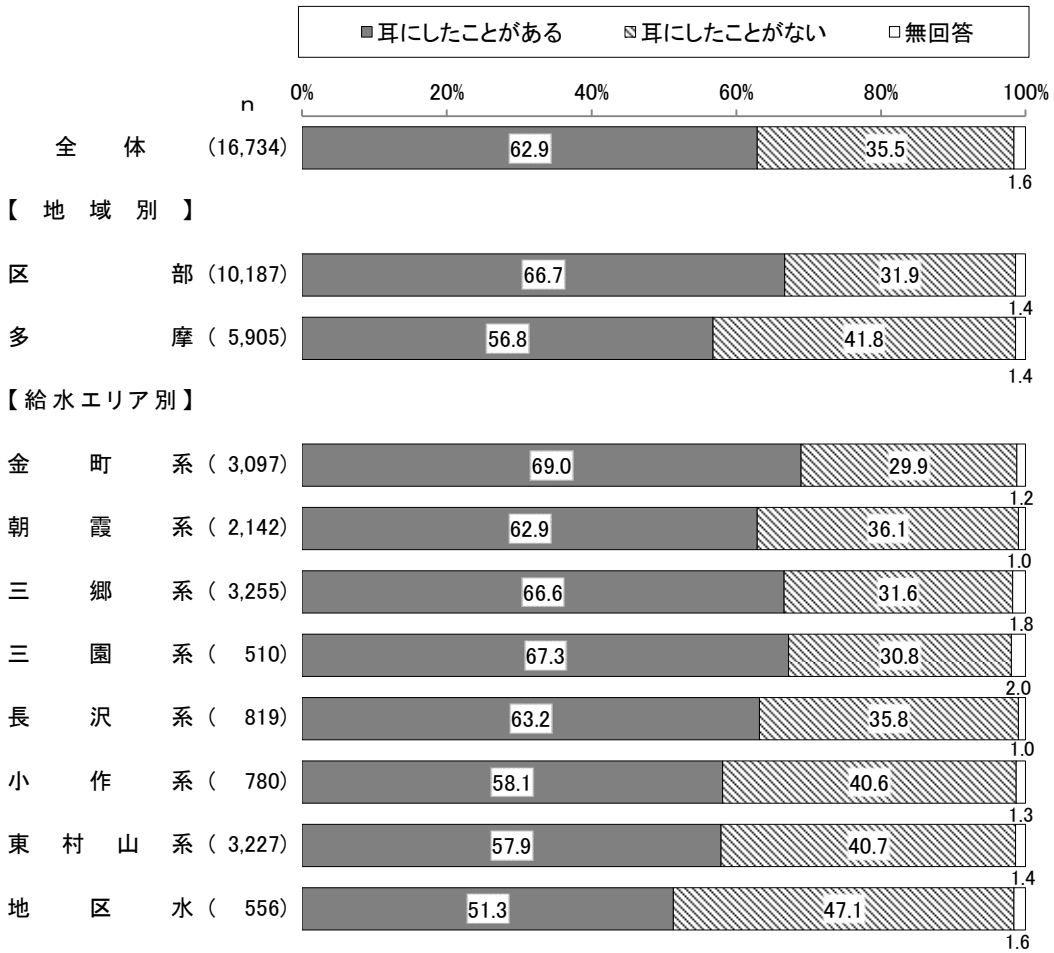
○性別では、特に大きな違いはみられない。

○年齢別では、「耳にしたことがある」は、19歳以下（40.6%）で最も低く、年齢が上がるにつれ割合が高くなり、70歳以上（66.4%）で最も高くなっている。

○性／年齢別では、「耳にしたことがある」は、男女ともにおおむね年齢が上がるにつれ割合は高くなっており、女性の70歳以上（68.1%）で最も高くなっている。

③　「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（地域別、給水エリア別）

〈図表２－３－１７〉



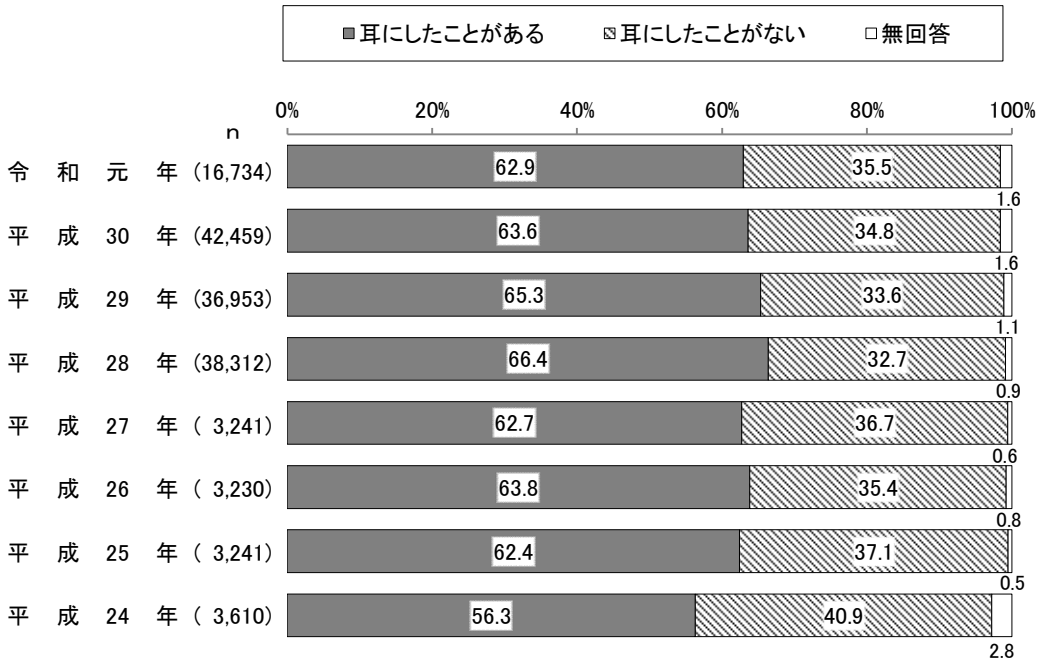
＜特徴＞

○地域別では、「耳にしたことがある」は、区部（66.7%）の方が多摩（56.8%）より9.9ポイント高くなっている。

○給水エリア別では、「耳にしたことがある」は、金町系（69.0%）で最も高く、次いで三園系（67.3%）、三郷系（66.6%）などとなっている。

④　「東京の水がおいしくなった」という声を耳にすることの有無（時系列：全体）

〈図表２－３－１８〉



＜特徴＞

○前年度調査との比較では、特に大きな違いはみられない。

平成27年度から令和元年度までの５年間の傾向でも、特に特に大きな違いはなく、「耳にしたことがある」は、６割強から６割台半ばで推移している。